

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 木・4・金・3	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	ドイツ語 I (German I)		
対象年次 1 年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等) (木・4 : D16・17) (金・3 : M12)	科目分類 外国語科目 (ドイツ語)		
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室 担当教員 : 目 正勝 / E メールアドレス : <a href="mailto:m79sakka@aol.com">m79sakka@aol.com</a> / 研究室 : (非常勤講師)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法 (学習指導法) / 授業到達目標			
<p>授業のねらい:</p> <p>ドイツ語文法の基礎を学習する。平易なドイツ語例文に付けられた解説と練習問題を通じて、文法を理解し、語彙を増やし、正確な発音を身につけ、ドイツ語文読解のための確実な土台をつくる。テキストのドイツ語文やその他の記事を読んで、ドイツの地理や文化、また現代ドイツの諸事情についても理解を深める。</p> <p>授業方法:</p> <p>テキストに従って進む。まず発音規則を覚え込むことから始める。その後、名詞や動詞などの語形変化、文の構造の把握、助動詞の用法などが続く。前期は非人称代名詞や不定代名詞の用法まで進む。</p> <p>教室では、文法の説明のあと、テキストの練習問題にできるだけ多く取り組む。前もって単語の意味を調べておく必要がある。語形変化は練習を繰り返し繰り返し行う。</p> <p>テキストの音読やテープによるリスニングも。</p> <p>授業到達目標:</p> <p>正確な発音で読める。初級文法をひと通り身につけ、平易なドイツ語文であれば辞書を引きながらでも読んで理解することができる。簡単な会話文であれば、聞き取ったり、発話したりすることができる。</p>			
授業内容			
<p>全15課のうち、前期は7~8課まで進む。</p> <p>第1回 アルファベットと発音、簡単なあいさつの表現など。</p> <p>第2回 発音、母音と注意すべき子音、第1課、動詞の現在人称変化。</p> <p>第3回 発音、特に注意すべき子音、第1課、動詞の現在人称変化(2)、語順、数詞(1)。</p> <p>第4回 第2課、名詞と冠詞、格変化、格の用法、seinの現在人称変化。</p> <p>第5回 第3課、名詞の複数形、男性弱変化名詞、練習問題。</p> <p>第6回 第4課、不規則な動詞の人称変化、疑問代名詞、前置詞の格支配。</p> <p>第7回 第4課、前置詞の格支配(2)、練習問題、数詞(2)。</p> <p>第8回 第5課、前置詞の格支配(3)、前置詞と定冠詞の融合形など。</p> <p>第9回 第5課、命令形、数詞(3)、練習問題。</p> <p>第10回 第6課、定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞。</p> <p>第11回 第6課、接続詞、練習問題、第7課、分離動詞。</p> <p>第12回 第7課、非分離動詞、非人称代名詞の用法など。</p> <p>第13回 第7課、年号の読み方、練習問題、第8課、話法の助動詞。</p> <p>第14回 第8課、話法の助動詞、未来の助動詞、不定代名詞の用法。</p> <p>第15回 全授業のまとめ、定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>教科書:</p> <p>「練習中心・小ドイツ語文法」 荻野蔵平 著 同学社</p> <p>独和辞典:</p> <p>『新アポロン独和辞典』(同学社) 他</p>		
成績評価の方法・基準等	○定期試験(約90%)、および平素の学習成績、授業への参加状況(約10%)を考慮して評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			